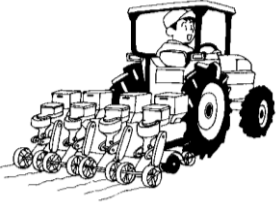



麦栽培暦

月	旬	生育	主な管理作業
9	下	播種	(会津地方：播種)
10	中		○堆きゅう肥の施用 ○酸度矯正資材の投入 ○種子消毒
10	下		○耕起・施肥・播種 ○排水溝の設置 ○除草剤散布
11	上	分けつ始め	
11	中		
11	下		
12	上	幼穂形成期	○麦踏み1 (茎数が不足ぎみの時は実施しない)
12	中		
12	下		
1	上	最高分けつ期	○麦踏み2 (早期茎立ち・霜害の防止)
2	中		
2	下		
3	上	節間伸長開始期	○幼穂形成期追肥
3	中		
3	下		
4	上	出穂期	○排水溝の整備 (随時)
4	中		
4	下		○出穂期追肥
5	上	成熟期	○病虫害防除 (赤かび病、うどんこ病)
5	中		
5	下		
6	上	成熟期	○適期収穫 (子実水分35%以下)
6	中		
6	下		

◆土作り

- ・堆きゅう肥の施用は、地力をたかめ、収量・品質向上に有効。
- ・小麦は、適応pHが6程度とやや高いため、土壤酸度矯正を行う。
(苦土石灰または消石灰 60~80kg/10a)

◆排水対策

- 小麦は、湿害に弱いため、
 - ・排水良好なほ場を選定。
 - ・額縁明きよ等の表面排水のための明きよは必ず設置。
 - ・暗きよ施工と合わせ、サブソイラーによる弾丸暗きよの設置が有効。
 - ・降雨後の「溝さらい」は、収量・品質向上の重要なキーポイント。

◆種子の準備

- ・温湯浸法：小麦で46℃、8~10時間浸漬。

◆播種作業

播種適期	10月下旬
播種量 /10a	ドリル播 8~10kg
基肥(側条施肥)	N:P:K=10:10:10kg/10a

- ・耕耘は播種当日に播種直前に行うのが良い。
- ・条間 20-30cm(ローリ-幅等機械条件を考慮)。
- ・播種が遅くなる場合は播種量をやや多めにする。
- ・覆土は2cm程度を確保し、あまり深植えしないよう注意する。

◆管理作業

強靱な穂を出させるため、下記の時期に麦踏み作業を実施する。

- 1 2月上~中旬、2月下~3月上旬に2回実施。
(実施晩限は節間伸長期前まで。乾燥した時期に実施)

【注意事項】

- ・麦踏みは、土壌が湿っていると土を締付け生育を抑制するため、乾燥した時期の午後に実施。
- ・生育が旺盛でない場合は、生育抑制を起こすため実施しない。
- ☆適期管理作業のため、弾丸暗きよ施工など十分な排水対策を行うこと。

◆生育期の目標生育量 (きぬあずま)

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
越冬前 (12月中旬)	13.5-15	550-650
幼穂形成期 (3月中旬)	16-18.5	950-1300

◆追肥施用

(単位: kg/10a)

	幼穂形成期追肥		出穂期追肥	
	窒素	施用時期	窒素	施用時期
シュンライ	3~4	2月下旬~3月上旬	—	—
きぬあずま	3~4	3月上旬~3月中旬	(1~2)	(5月上旬)
ゆきちから	3~4	3月上旬~3月中旬	2~3	5月上旬
ふくあかり	3~4	2月下旬~3月上旬	(1~2)	(5月上旬)

◆成熟期の目標生育量 (きぬあずま)

稈長	85-90cm
穂数	550-600本/m ²
穂長	7.5-8.0cm
千粒重	37-40g
収量	500kg/10a

◆収穫調製作業

- ・刈り取り時期は出穂後概ね45日程度が目安。天候を見ながら機動的に刈取実施。
- ・穂発芽しやすいため、降雨が予想される場合は早刈りを実施
- ・コンバインによる収穫の時期は子実水分が35%以下
- ・コンバインの抜廻回転数は400-450rpm
- ・乾燥機の温度は50℃以下、仕上げ水分12.5%
- ・調整ふるい目は2.4mm以上 (2.5mm以上が望ましい)